



国際研究集会 2009：外国語教育の文脈化：『ヨーロッパ言語共通参考枠』+複言語主義・複文化主義 + ICT とポートフォリオを用いた自律学習

2009年4月3日（金）4日（土）5日（日）10:00-17:30

主催：京都大学大学院外国語教育論講座

場所：京都大学大学院人間環境学研究科棟（吉田南キャンパス）

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/downloadmap/documents/main2008.pdf>

日仏同時通訳あり

参加費：一般 2000 円、学生 1500 円

このシンポジウムは京都大学大学院 人間・環境学研究科 外国語教育論講座が日本学術振興会の援助（国際研究集会）により開催するものです。

趣旨：

西欧諸国で開発された外国語教育の目的、目標、教授法等はアジアの外国語教育にあってはいるだろうか。ここで問題にしている「文脈化」とは、既存のモデルをローカルな環境に適応させることである。社会のグローバル化と世界の多極化の進む今こそ、外国語教育の文脈化を考えるべき時である。それぞれの国に、それぞれの教育機関に、それぞれの学習者にもっとも適している外国語教育の目的、目標、教授法等について議論しよう。

問題提起 1：

『ヨーロッパ言語共通参考枠』（CEFR）の受容と文脈化

西欧諸国で開発された外国語教育の目的、目標、教授法等はアジアの外国語教育の現場にあってはいるだろうか。最近、各国で『ヨーロッパ言語共通参考枠』を参考にして外国語教育の改革に役立てようとする動きが見られる。しかし、競って取り入れようとしているのは『参考枠』の共通基準（第3章の共通参考レベル Common Reference Level と第4章の can do リスト）に限定されているように思われる。しかも、それはしばしば1言語内の共通基準である。レベルと can do リストが一人歩きをしていて、肝心のヨーロッパ評議会の言語政策に基づいて作成された『参考枠』の目的、目標が忘れられている。『参考枠』の作成に中心的役割を果たした Coste 氏は、『参考枠』の使用にあたっての文脈化の必要性を早くから主張している。彼の言っている「文脈化」とは、既存のモデルをローカルな環境に適応させることである。第4章のレベルと can do リストのみを文脈化して、換骨奪胎して用いるにしても、『参考枠』の基本理念は考慮する必要があるはずである。そこで、アジアの各国では『参考枠』はどのように受容され、文脈化されているか情報交換し、『参考枠』の受容と文脈化に伴うさまざま問題について議論しよう。

キーワード：『ヨーロッパ言語共通参考枠』（CEFR）の基本理念；文脈化；共通基準；共通参考レベル；can do リスト

問題提起 2：

複言語主義・複文化主義とグローバル化と多極化

社会のグローバル化に伴い、国際語としての英語の地位はますます高まっているのに対して、英語以外の外国語の国際語としての地位は低くなっている。一方において、世界の多極化が急速に進行している。このような世界において、いま英語以外の外国語はどのような教育をすればいいのだろうか。この疑問に答えてくれるのは『ヨーロッパ言語共通参考枠』の提唱している「複言語主義・複文化主義」であるようと思える。本来、『参考枠』では共通基準の普及と複言語主義・複文化主義の促進は車の両輪であったはずである。

グローバル化と多極化が同時進行している今こそ、英語以外の外国語教育の目的、目標、教授法等について議論しよう。

キーワード：複言語主義；複文化主義；外国語教育の目的；外国語教育の目標；外国語の教授法

問題提起 3：

ICT とポートフォリオを用いた自律学習と複言語能力・複文化能力の養成

『ヨーロッパ言語共通参考枠』では、生涯学習を展望に入れて自律学習能力の養成と自律学習が推奨されている。日本の外国語教育の現場では、別の理由でも自律学習が必要とされている。『参考枠』の提唱しているように母国語以外に二言語を教育し、複言語能力・複文化能力を養成するためには、日本の学習者にとって、圧倒的に学習時間が不足している。その不足している学習時間を補うための切り札になるのが自律学習である。授業時間外に自律学習すれば、学習時間を増やすことができる。

また、我が国で『参考枠』について言及するときに忘れられがちなのは、複言語能力・複文化能力を養成するためのツールである『ヨーロッパ言語ポートフォリオ』（ELP）の存在である。ポートフォリオの導入の目的のひとつは、自律学習能力の養成のためである。

ICT（情報通信技術）の進歩と普及とポートフォリオの導入により自律学習は今新しい局面を迎えている。新しい自律学習の実践、教材について議論しよう。

キーワード：複言語能力・複文化能力；自律学習；生涯学習；ICT；ポートフォリオ

プログラム

4月3日

15:00

清風荘の見学（西園寺公望所有の築80年の日本建築、庭園、茶室）、予約必要（無料）
清風荘について

清風荘は、元公爵西園寺公望（1849～1940）の京都別邸として使用されていたものです。公の没後は住友吉左衛門氏によって保管されていましたが、本学創設当時文部大臣として、公私ともに本学創設を支援された公の遺徳を偲ぶため、昭和19年6月住友家から京都大学に寄贈されました。

本庭園は文化財保護法の規定により昭和26年6月9日“名勝清風荘庭園”として指定、建物11棟は平成19年5月15日“登録有形文化財（建造物）”として登録されています。

清風荘のそもそもの起源をたどると、享保17(1732)年頃徳大寺家の別邸として建築されたもので、その後住友家の所有となり、西園寺家がそれを使用していました。したがって、現存する家屋などは公の時代に改築増補したものですが、特に邸内の茶室と改築された庭園は名高く、茶室は貴人（きにんぐち）と称して斯界に珍重され、また敷地面積の9割を占める庭園は明治、大正時代にわたって作庭家として令名ある植治こと小川治兵衛氏の作庭で知られています。

現在の建物は、当時名工と謳われた大阪の大工・八木甚兵衛氏の手になるもので、1910年に着工し5年を費やして竣工しています。工期が長くかったのは、建材の選択と乾燥によるものと考えられます。建物の造営には公自信が材料や形式について細かく指示されたというだけあって地味ながら落ち着いた気品が漂っています。

本館は東、中、西の3棟よりなり、柱は杉面付角であるが部分的に桧も使用されています。また3棟とも数寄屋造りの建物（台所、小部屋は普通普請）で、それぞれ茶室、居住（宿泊）部分、会議室という機能的なものとなっています。

当初の池の面積は、現在の広さの倍強で、庭のところどころには、老木が茂り非常に風情のないものでした。現在の庭園は新築が進むにつれて10年くらいかかり改造された模様で、まず旧屋館を取りこわし茶室を移築して泉水を半分に縮め、石を配して建物との調和を図っています。池の水は旧今出川を流れる太田川（現在は暗渠）から東内部大水槽2カ所に取り入れ、調節を行い、東高見の2つの滝から池に注ぎ、その一部の水が茶室の前に作られた小川に流れ風景を添え西南角まで流れています。清風荘庭園は、江戸中期以降にはなかったのびのびとしたおおらかな庭となっており、明治時代の代表的庭園としてその文化的価値は高く評価されています。

17:00

京都大学大学院人間・環境学研究科地下会議室

挨拶、趣旨説明

17:15

基調講演1、フランシス・グレイ（フランス、国民教育省視学総監）、「ヨーロッパ共通言語参照枠」一個別の文脈のニーズに応えることと共通の価値観を推進する上での緊張感について（同時通訳付き）

18:00

基調講演 2, 田中慎也 (言語政策学会会長, 英語)

19:00

夕食会 (聖護院 御殿荘, 会費 6500 円要予約)

聖護院とは

本山修験宗の総本山で, 皇族の方が代々の御門主となられた格式高い寺院です。天明 8 年と安政元年の二度の御所炎上の際に, 仮皇居に用いられたことから, 昭和 11 年に「聖護院仮皇居」として国の史跡に指定されております。

仮皇居の折, 一夜にして建てられたと伝えられる「一夜造りの御学問所」, 狩野派の襖絵, 特に御所の女院を移建したといわれる書院は重要文化財に指定されており, 当時の面影を偲ばせます。

この由緒ある聖護院門跡の一部を旅館として開放したのが「聖護院御殿荘」です。聖護院の伝統を受け継いだ風格のあるたたずまいと, 茶道の心を厳しく守ったおもてなし。よりいっそうの安らぎと潤いを感じて頂ける, 趣のある宿でございます

<http://www.gotenso.com/>

4月4日

京都大学大学院人間・環境学研究科地下会議室

9:30

シンポジウム 1, 『ヨーロッパ言語共通参考枠』(CEFR) の受容と文脈化 (日仏同時通訳付き)

パネラー

細川英雄 (早稲田大学, 日本語)

フー・ロン (中国, 北京外国语大学, フランス語) 「中国のフランス語教育における『ヨーロッパ言語共通参考枠』の有用性について」

ロバート・ファウザー (アメリカ合衆国, ソウル大学, 韓国語)

イヴォン・ヴロバック (クロアチア, ザグレブ大学, フランス語)

コメントーター: フランシス・グレイ (フランス, 国民教育省視学総監)

司会: 西山教行 (京都大学, フランス語)

12:00

昼食 (自由)

13:30

京都大学吉田南キャンパス総合館北棟 3 階

研究発表, ワークショップ

15:00

京都大学大学院人間・環境学研究科地下会議室

休憩

15:30

基調講演 3, スザンヌ・エティエ (カナダ, ケベック州政府事務所代表) (同時通訳付き)

16:00

シンポジウム 2, 複言語主義・複文化主義とグローバル化と多極化 (日仏同時通訳付き)
パネラー

アンリ・ベス (フランス, リヨン人文科学高等師範学校, 京都大学客員教授, 言語教育学) 「外国語の文法教育の文脈化について」

松岡洋子 (岩手大学, 日本語)

チャン・ニナ (韓国, 釜山外国語大学, フランス語), 「韓国における『ヨーロッパ言語共通参照枠』について」

テーヤ・オストハイダ (ドイツ, 関西学院大学, ドイツ語)

コメンテーター: 田中慎也 (言語政策学会会長, 英語)

司会: (交渉中)

18:30

終了

19:00

懇親会 (カンフォーラ, 会費 4500 円要予約)

4月 5日

9:30

京都大学吉田南キャンパス総合館北棟 3 階

研究発表, ワークショップ

11:00

休憩

11:30

京都大学吉田南キャンパス総合館北棟 3 階

研究発表, ワークショップ

13:00

昼食 (弁当, 800 円要予約)

14:00

京都大学大学院人間・環境学研究科地下会議室

基調講演 4, フランシス・カルトン (フランス, ナンシー第 2 大学, 言語教育学) (同時通訳付き)

14:30

休憩

15:00

シンポジウム 3, ICT とポートフォリオを用いた自律学習と複言語能力・複文化能力の養成 (日仏同時通訳付き)

パネラー

ヴェロニク・カステロッティ (フランス, トゥール大学, 京都大学客員教授, 言語教育学) 「ポートフォリオを活用した複言語能力の促進」

中川慎二 (関西学院大, ドイツ語)

曹 美庚 (韓国, 九州大学, 朝鮮語)

砂岡和子 (早稲田大学, 中国語)

コメンテーター: フランシス・カルトン (フランス, ナンシー第2大学, 言語教育学)

司会: 大木 充 (京都大学, フランス語)

17:30

閉会

研究発表・アトリエ一覧

日付, 時間帯, テーマ, 教室.

4月4日

13:30-14:00, 共北31講義室 (交渉中)

1, 福島青史 (国際交流基金ブダペスト日本文化センター), 複言語主義理念の受容とその実態-ハンガリーを例として-

14:00-14:30

1, 櫻井直子 (ルーヴン・カトリック大学, ベルギー), CEFRの機関シラバスへの文脈化の一例

14:30-15:00,

1, 和氣依子 (京都日本語教育センター), 『共通参照レベル: 話したことばの質的側面』に制限されない事例の報告—Speaking Test改善の取り組みを通して

4月4日

13:30-14:00, 共北32講義室 (交渉中)

2, 許之威 (京都大学大学院), 「地域日本語教育とは何か—日本語教育のもう一つ語り方」

14:00-14:30

2, 李 羽てつ(京都大学大学院), 中国人日本語学習者の漢語学習における自信度と理解度について-中国大学生を対象とした調査結果から-

14:30-15:00

2, 藤川穣輔 (関西大学大学院) 複言語・複文化能力の育成に向けた高等学校での第2外国語教育—ドイツ語の場合

4月4日

13:30-14:00, 共北33講義室 (GOUILLER, Francis)

2, MONTAIGNE-MACAIRE, Dominique (Univ. Montesquieu Bordeaux IV-IUFM, France), Construire la compétence plurilingue et pluriculturelle en formation d'enseignants de langues : Étude des freins et des leviers dans un contexte européen, la France

14:00-14:30

2, CANALE, Odile (Délégation générale à la langue française et aux langues de France, France), Les Etats généraux du multilinguisme, une étape dans une démarche politique

14:30-15:00

2, TREMBLAY, Christian et DUMITRIU, Dana-Marina, (Observatoire européen du plurilinguisme. France), L'Europe à l'âge du plurilinguisme assumé: la Charte européenne du plurilinguisme

4月4日, 13:30-14:00, 共北34講義室 (Francis Carton)

3, HASHIMOTO, Chizuko

(univ. de Nagasaki, Japon), La version japonaise des outils pédagogiques TV5MONDE— un essai d'adaptation aux contextes locaux

14:00-14:30

3, SAGAZ, Michel (univ. Waseda, Japon), La contextualisation du CECL au Japon face à la problématique des langues-cultures lointaines : penser la méthode

14:30-15:00

3, TSAI Minghua, Naomi (Tunghai University, Taiwan), Développement de l'apprentissage autonome par des tâches pédagogiques via la toile dans le cadre de l'enseignement de Français langue optionnelle dans l'enseignement supérieur à Taiwan

4月4日

13:30-14:00, 共北35講義室(Jean-Francois Graziani)

3, FOUCHER, Anne-Laure (univ. Blaise Pascal, Clermont-Ferrand, France), Concevoir des dispositifs d'apprentissage de la langue étrangère intégrant les Tice, en direction de publics spécifiques : que nous dit la didactique ?

14:00-14:30

3,

DIEP, Kien Vu (Université de Cantho, Vietnam), Enseignement/apprentissage du français à l'aune des cultures asiatiques : les prises de parole difficiles chez les apprenants vietnamiens : Vers un enseignement éclectique de la communication

14:30-15:00

3, MEIDINGER, Rodolphe (Univ. Nationale de Chungbuk, Corée), Blog de classe, proposition d'un mode d'emploi possible

13:30-15:00, ワークショップ, 共北36講義室

3, MEIDINGER, Marcela (Université de Cheongju, Corée), Approche communicative et production vidé

4月5日

9:30-10:00, 共北33講義室 (BESSE, Henri)

1, PUNGIER, Marie-Françoise (univ. préfectorale d'Osaka, Japon), Du local au global : le CECL comme articulateur de contextes

10:00-10:30

1, GAUVAIN, Philippe (Jinan Foreign Language School Kaiyuan International, Chine), Le Cadre Européen Commun de Référence pour les Langues : Un cadre riche pour les débutants à contextualiser pour les traducteurs-interprètes

10:00-10:30

1, GALLIGANI, Stéphanie (univ. de la Sorbonne nouvelle-Paris 3, France), Des limites du CECL en contexte homoglotte : cas de l'enseignement du français aux enfants nouvellement arrivés en France

4月5日

9:30-10:00

共北 34 講義室 (CASTELLOTTI, Véronique)

1, ISHIKAWA, Fumiya et ROSEN, Évelyne, (Univ. de Yokohama-shi, Japon, Univ. de Lille 3, France), Entre adaptation du CEFR et ajustement du contexte : problèmes contextuels et terminologiques dans la contextualisation du CEFR au Japon

10:00-10:30

1, BEL, David (Univ. Normale de Chine du Sud, Chine), La mise en place d'un curriculum de français aux normes internationales dans une université du sud de la Chine : entre innovations et compromis.

10:00-10:30

1, MILHAUD, Marianne (Univ. Hankuk des Études Étrangères, Corée), Contraintes institutionnelles pour l'élaboration des manuels de lycées coréens et propositions d'objectifs plus réalistes : un exemple de contextualisation du CEFR

4月 5日

9:30-10:00, 共北35講義室 (RAMETTE, Alain)

2, CHEVALIER, Laurence (univ. Seinan, Japon), Contextualisation et cultures éducatives : l'occasion de repenser l'enseignement/apprentissage du FLE au Japon

10:00-10:30

2, BRUN-COTTAN, Hélène (Dayeh University, Taiwan), Contextualisation de l'enseignement du français de spécialité des affaires à Taiwan : Pour une prise en compte des objectifs sociaux de référence dans l'approche de la dimension pluriculturelle

10:00-10:30

2, RICO-YOKOYAMA, Adriana (Univ. Kansai, Japon), Plurilinguisme, pluriculturalisme, cadre et contextualisation
4月 5日

9:30-10:00, 共北31講義室(杉谷真佐子・関西大学)

2, 牝川波都季 (秋田大学), 日本語コミュニティを創り出す—アメリカ高等教育機関での日本語教育実践より—

10:00-10:30

2, 新井久容 (早稲田大学), 日本語教育と討議民主主義 (deliberative democracy)—ひとの複数性の政治性を手がかりとして」

10:00-10:30

2, 柳美佐 (京都大学大学院), 在日朝鮮学校のバイリンガル教育

4月 5日

10:30-11:00, 共北33講義室 (AVOCAT, Eric)

2, BERNI, Isabelle (Hong Kong Baptist University, Chine), Enseigner le français dans un programme d'études européennes à Hong Kong, ou comment tirer profit de la diversité des cultures d'apprentissage.

11:00-11:30

2, LE CARS, Franck (Lycée Joffre, France), Enseigner la géographie et l'histoire dans une autre langue pour connaître le monde.

11:30-12:00

2, HONJO, Takako (Univ. Stendhal - Grenoble 3, France), Les facteurs de transmission du japonais au sein d'unions linguistiquement mixtes en France

4月5日

10:30-11:00, 共北34講義室 (Didier Chiche)

3, VROOVAC, Yvonne (Univ. de Zagreb, Croatie), Introduction du Portfolio européen des langues (version croate) dans des écoles primaires – quelques questions de réflexion

11:00-11:30

3, NORMAND-MARCONNET, Nadine (IUM-Université du Maine, Vietnam), Contextualisation du CECR et de ses outils conceptuels : pour une approche intégrée du portfolio aux cultures d'enseignement-apprentissage locales afin de favoriser un apprentissage plus autonome.

Contextualization of the Commun European Frame and its conceptual tools : how to implement a localized approach of European Language Portfolio which will match specific learning and teaching cultures in order to promote student autonomy?

11:30-12:00

3, AUTHEMAN, Michèle (Hanyang University, Corée), Le Portfolio Europeen des langues dans le CECR : approches pluriculturelles et contraintes

4月5日

10:30-11:00, 共北35講義室 (BROCK, Julie)

3, LE NENAON, Nadine (Univ. INHA, Corée), Les reseaux sociaux comme outils pedagogiques dans l'enseignement du FLE

11:00-11:30

3, DUVAL, Arnaud (Ajou University, Corée), Des projets interculturels au service de l'enseignement du français en Corée.

4月5日

10:30-11:00, 共北31講義室(小松祐子・筑波大学)

3, 茂木良治(早稲田大学), 学習者から見た遠隔自律学習-オンライン学習日誌の分析より-

11:00-11:30

3, CALBERT, Graham (京都大学大学院),(自律学習)

11:30-12:00

3, 堀 晋也(京都大学大学院), ICTを用いた外国語教育における学習者の動機づけとポートフォリオの果たす役割についての考察

9:00-10:30, ワークショップ, 共北36講義室

3, 倉館健一・濱野英巳・谷内正裕(慶應義塾大学), 「学習」と「教材」概念の革新 - « Moteur »のインパクト De l'Impact de « Moteur » sur l'apprentissage et l'élaboration du matériel d'apprentissage

11:00-12:30, ワークショップ, 共北 36 講義室

3, LEROY, Patrice・國枝孝弘・倉館健一・五十嵐玲美(慶應義塾大学), 言語教育のリソースシェアリング - 学習と教育における自律 Partage de ressources dans l'apprentissage de langues - autonomie dans l'apprentissage, autonomie dans l'enseignement